

## 招待

僕は呼ぶ  
大声を張り上げて遥かに  
僕は呼ぶ

ああ  
真直ぐな地平よ  
僕を無にせよ

冷えてゆく大気が  
オレンジの空を薄め  
一匙の僕はその彼方へと飛ぶ

現在  
この場所  
そこに僕は居る

ああ  
この身体の奥底の慄える泉から  
臉の奥へと伝わり、湧き上がる涙

何らの生きる意味を知らぬ僕でも  
この時刻から受け取ることにはできる  
この世界に僕の生きている証を

冴え冴えとした円い天空に  
ぐるりと抱きかかえられて  
ああ、僕はここに居る

程なく訪れる夜の帳  
何万年もかかって届く星の瞬き  
僕はおまえ達に尋ねたい

かつて無かったもので  
現在あるものを  
僕はいくらでも知っている

しかし、かつては在ったもので

現在ないものを  
僕はまるで知らない

かつてあなたが享けていたものを  
僕に教えて下さい

かつてあなたが夢見ていたものを  
僕に教えてください

さあ、会堂の屋根を天に向けて開く時刻だ  
オルガンのパイプから音を放ち  
降り来る星々の眩きを招き入れよう  
そして語り明かすのだ  
朝の眩い陽光が目を覚ますまで

(2005.12.16)